

列状間伐への課題

- 優良木を生産するため、定性間伐を希望する所有者が多く、立木の品質に関係なく伐採する列状間伐への理解が得られにくい。
- 風倒被害への懸念。

取組目標

- 高性能林業機械を使用した列状間伐等による低コスト化を推進し、安定的に木材を供給する。
- 列状間伐の推進により、かかり木の発生を減少させ労働安全の向上を図る。
- 市町村有林・一般民有林への普及を図る。

平成28年度の取り組み

コストの見える化

＜方向性＞

列状間伐の普及には、森林所有者が抱いている「伐採時の立木の損傷」「伐採後の風倒被害」「伐期の収益性」等の不安を払拭していく必要がある。

これまで、列状間伐の実施にかかる「低コスト」「切捨間伐を収益間伐で実施出来る」等の利点を紹介してきたが、説得力に欠けている面がある。特にコスト面について説明するためのデータ等が不足していたため、見える化が必要。

＜取り組み＞

列状間伐のコストの見える化に向けて、当支署の間伐事業における工程管理プログラムでの作業工程分析のためのデータ収集の協力について請負事業体へ依頼。

情報の共有

＜取り組み＞

十勝地域林政連絡会議等各種会議の際、民有林関係者を対象とした列状間伐箇所の現地検討会を実施し、作業イメージや残存木への影響の低減等のメリット、安全かつ効率的な作業システム等について、技術情報を紹介。



＜成果＞

請負事業体に協力依頼をすることにより、工程管理やコストについて目を向けてもらえることができた。

個人の森林所有者は「間伐の際に優良な木を伐採するのはもったいない」等の森林に対する施業の方向性や思いを確認出来た。

列状間伐がどんな作業システムでどのように実施されるのか等の列状間伐の作業イメージを見せることにより、列状間伐への理解が深まった。

＜今後＞

分析に必要なデータがないことから、列状間伐の作業システムや伐採搬出コストの見える化に向けて、データを収集・分析し、作業ごとの工期等のコストをわかりやすく紹介していく。

各種会議や現地検討会などの機会を通じ、継続的に、技術情報等を紹介していくことにより、列状間伐への理解を得ながら普及を図っていく。

今後に向けて

間伐コストの見える化に向けたデータ収集を継続